

平成 25 年度

# 食材提供の場を活用した食育実践活動事業 報告書

平成 26 年 3 月

一般社団法人

J C 総 研

# もくじ

1. 調査の目的と概要	1
調査の目的	
調査方法	
調査の概要	
2. 地域の食生活の把握（事前調査）	5
食習慣調査（BDHQ調査）	
食に関する意識調査	
3. 地域の食生活の改善方策と検討と実践	12
店舗の概要	
店舗での実践	
4. 効果の検証（事後調査）	29
食習慣調査（BDHQ調査）	
食に関する意識調査	
食事日誌調査	
5. 本事業の成果と課題	44
6. 資料編	46

# 1. 調査の目的と概要

J C総研では、生産者と消費者の交流拠点である農産物直売所において、地域のより良い食づくりとともに地場食材の消費拡大に効果的な食育活動について調査・検討した。

## 調査の目的

食育基本法の策定から8年が経過し、多様な食育活動が展開されている。食の重要性に対する認知は浸透しつつある中、次に目指すのは、国産農産物の消費拡大を視野に入れつつ、実際の食生活を変えていくということである。

地産地消の拠点である農産物直売所は、生産する場と消費する場が近く、食材の先にある農業、農村、生産者までを伝える食育が可能である。そこで本事業は農産物直売所が生産者の所得向上とともに、地域の健全な食づくり(食育)の拠点という社会役割の可能性を明らかにし、実現するために必要な方策を調査・検討した。

## 調査の方法

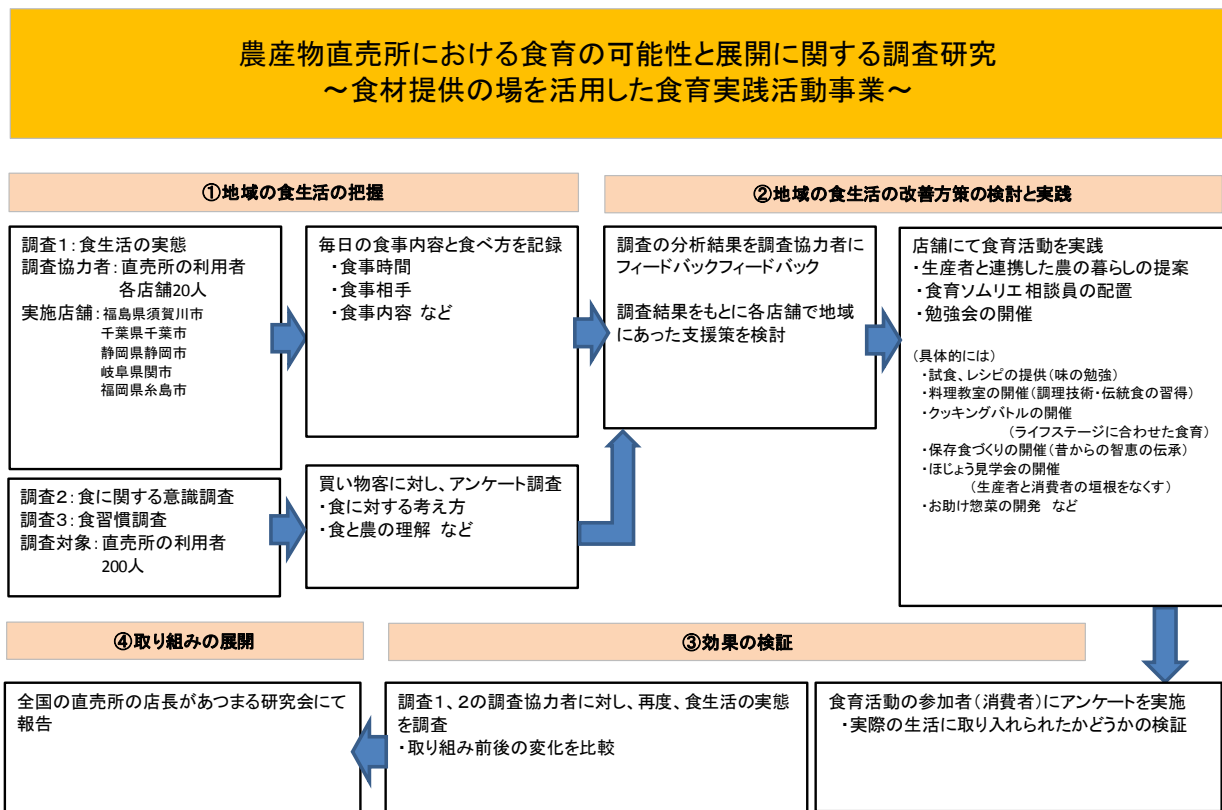
全国の農産物直売所5か所で食生活調査および実践的取組(食育活動)を実施した。

店舗名	所在地
J Aすかがわ岩瀬 はたけんぼ	福島県須賀川市
J A千葉みらい しよいか〜ご習志野店	千葉県習志野市
J A静岡市 南部じまん市	静岡県静岡市
J Aめぐみの とれったひろば関店	岐阜県関市
J A糸島 伊都菜彩	福岡県糸島市

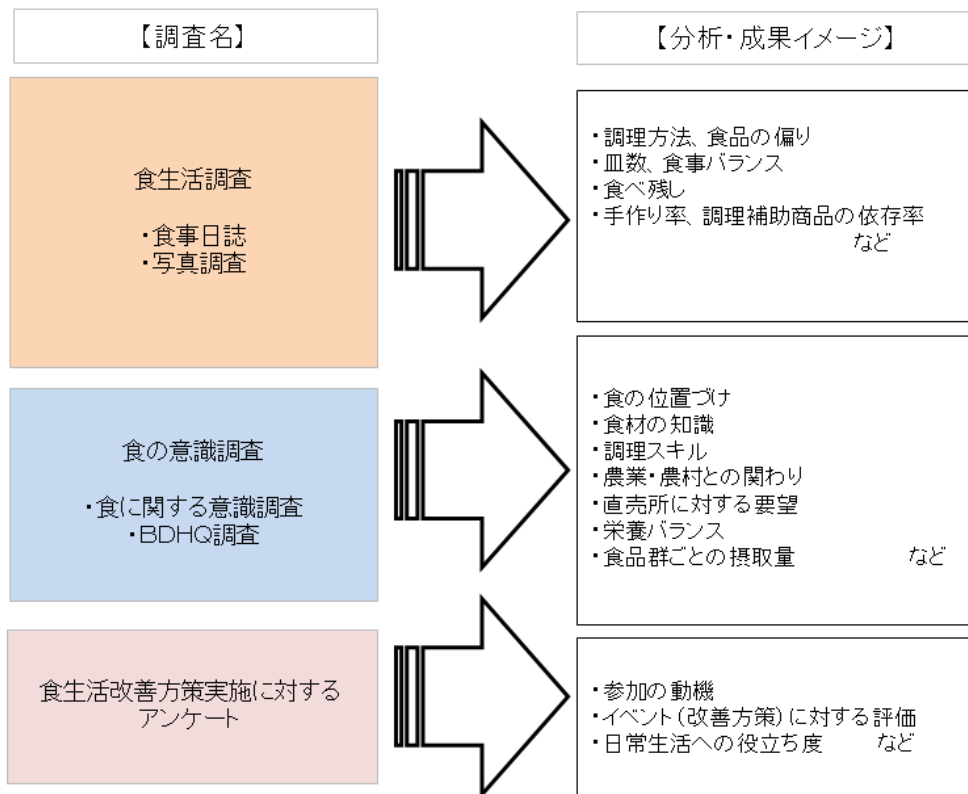
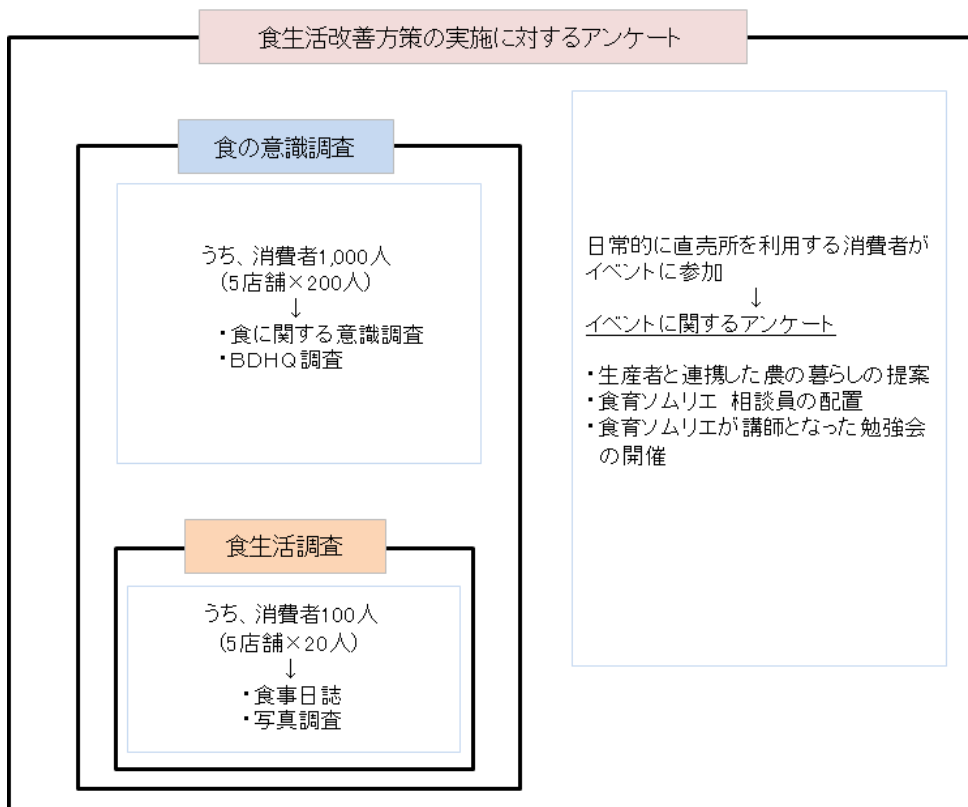
## 調査の概要

消費者の食生活を把握するため3つの調査を実施した。その結果をもとに、課題克服に向けた食育活動を各店舗にて実施し、その効果を検証した。また、本事業を進めるにあたり有識者等を委員とした検討委員会を設置し、農産物直売所で実践する効果的な食育活動のあり方について検討した。

## 事業全体のフロー



## 調査の内容



## 検討委員会の開催

### ■検討委員名簿（五十音順 敬称略）

所属	氏名
J A 静岡市 販売企画課 課長	浅場 貞文
日本大学 助教	久保田 裕美
J A 糸島 販売部 部長	小金丸 肇
サロンピルウファス 料理研究家	斉藤 かすみ
東京家政学院大学 准教授	酒井 治子
J A すがわ岩瀬 はたけんぼ 部長	佐藤 貞和
J A 千葉みらい しょいか〜ご店長	高浦 浩一
J A めぐみの 直売部 課長	山田 智
F M 総研(株) 代表取締役社長	山本 雅之

### ■実施時期と内容

会議名	開催日時・場所	内容
第一回検討委員会	平成 25 年 9 月 2 日 東京（飯田橋レインボービル）	事業概要の説明 今後の進め方 アンケート調査の内容について
第二回検討委員会 （現地視察）	平成 25 年 10 月 22 日 福岡（J A 糸島 伊都菜彩）	現地視察（食育活動の事例） アンケート調査の中間報告 食育担当者との意見交換
第三回検討委員会	平成 26 年 2 月 17 日 東京（飯田橋レインボービル）	アンケート調査の結果報告 食育活動の実施内容について 多店舗への展開について
第四回検討委員会 （食育活動報告会）	平成 26 年 3 月 18 日 東京（飯田橋レインボービル）	食育活動の効果と課題について 報告書のまとめ方について



## 2. 地域の食生活の把握（事前調査）

素材を中心とした売り場である農産物直売所を利用している消費者は、野菜や果物摂取量が比較的多いのではないかと想像できるが、実際はどうか、また農産物直売所への要望なども合わせて調査した。

### 食習慣調査（BDHQ調査）

調査日：平成 25 年 9 月上旬

対象店舗：はたけんぼ（福島県）

しよいか〜ご習志野店（千葉県）

南部じまん市（静岡県）

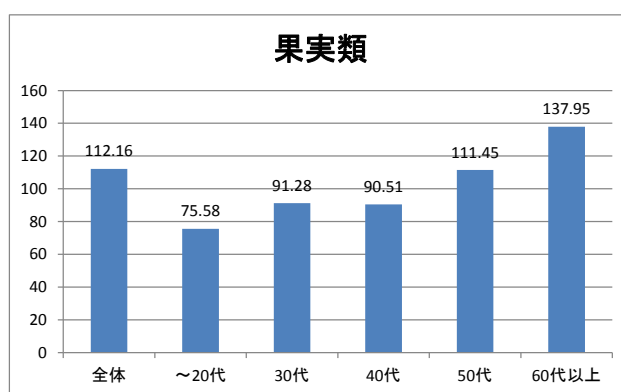
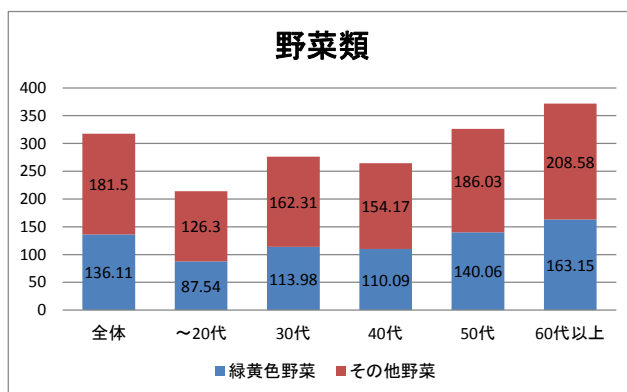
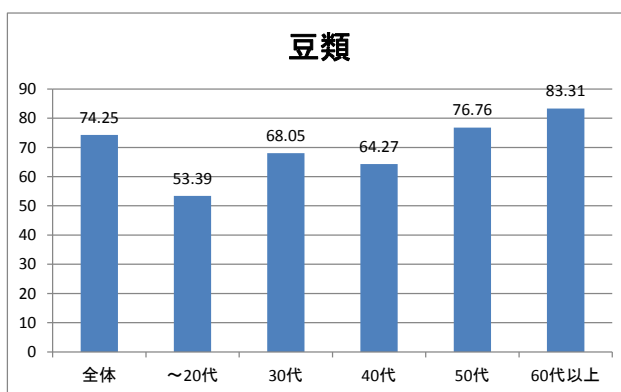
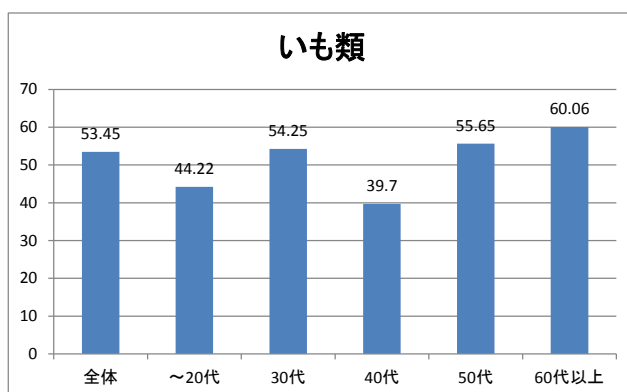
とれったひろば関店（岐阜県）

伊都菜彩（福岡県）

調査対象者：店舗利用者各 200 人

回収数：782 人

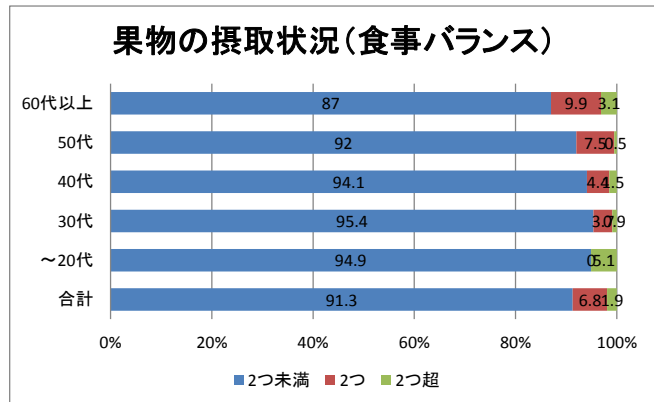
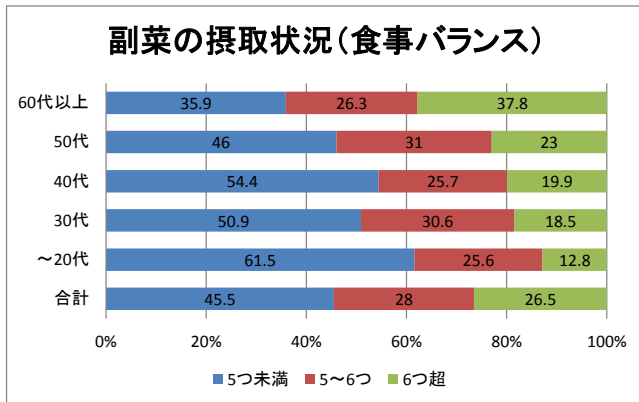
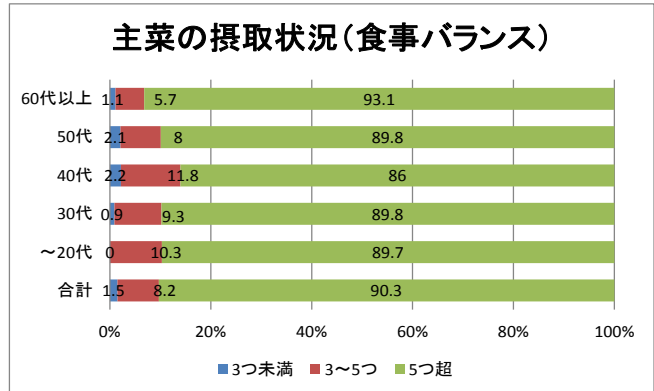
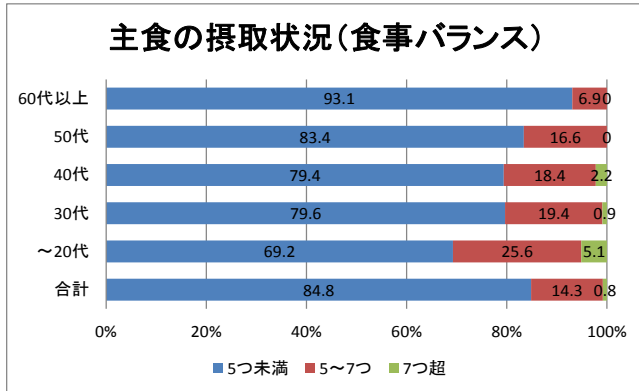
### 年齢層が上がるほど野菜、果物の摂取量が増加傾向に



いも類の摂取量は 53.45 g、豆類の摂取量は 74.25 g。60 代以上が最も摂取量の多い世代である。

野菜の摂取量は 317.61 g、果物は 112.6 g。40 代を除き、年代が上がるほど摂取量が増加する傾向にある。いも類、豆類も同じ傾向が見られた。

## 栄養バランスのとれた食事をとっている人は少数



年代や性別、運動量などにより理想的な食事バランスは異なるが、一般的な食事バランスで見ると、主食のごはんやパン、麺などの摂取量の理想は5~7つであり、それを満たしている人の割合は約1割であった。

肉や魚など主菜の目標とする摂取量3~5つを満たす人の割合は約1割であり、それより多く摂取している人が大部分であった。

野菜などの副菜の摂取量を見てみると、目標とする5~6つを摂取している人は約3割、果物の目標とする摂取量2つを満たしている人は約1割しかいない。

## 食に関する意識調査

調査日：平成25年9月上旬

対象店舗：はたけんぼ（福島県）

しよいか〜ご習志野店（千葉県）

南部じまん市（静岡県）

とれったひろば関店（岐阜県）

伊都菜彩（福岡県）

調査対象者：店舗利用者各200人

回収数：782人